

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス レインボー		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 16日		2026年 1月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数)
○従業者評価実施期間	2025年 12月 15日		2025年 12月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 22日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	●一人ひとりの個性と成長を大切にした支援 ・子ども一人ひとりの発達段階や特性、個性、家庭背景を大切に、その子に合った関わり方を心がけている。安心して自分らしく過ごせる環境づくりを行い、日々の生活や活動を通して子どもたちの気持ちの動きや成長のタイミングを大切にしながら、主体的な成長を支える支援を行っている。	・子ども一人ひとりの発達段階や特性、個性、家庭背景を大切に、その子に合った関わり方を職員間で共有しながら支援を行っている。 ・安心して自分らしく過ごせる環境づくりを大切に、日々の生活や活動の中で子どもたちの気持ちの動きや小さな成長のサインを丁寧に受け止めている。 ・活動や関わりの中で「できた」「やってみよう」という気持ちを大切に、成功体験を積み重ねることで主体的な成長につながる支援を心がけている。 ・職員同士で日々の様子を共有し、子どもの変化や成長のタイミングに合わせて柔軟に関わり方を工夫している。	・子どもの発達理解や特性理解を深めるために、他職種の実習体験、他施設の見学・職員研修を継続し、幅広い経験を基に専門性の高い支援につなげていく。 ・子どもの小さな成長や変化をより丁寧に記録・共有し、支援内容に反映できる人材育成の体制づくりを強化する。 ・保護者や学校との情報共有をさらに大切に、家庭・学校・事業所が連携した一貫性のある支援を目指していく。 ・子ども自身が「自分で考える」「自分で選ぶ」機会を増やし、主体性や自己理解を育てる支援を充実させていく。
2	・保護者・関係機関との連携と個々に合った支援計画 利用前のアセスメントや半年ごとのモニタリングを丁寧に実施し、保護者も話し合いに参加できる形で具体的な個別支援計画を作成している。面談での説明や日々の様子の共有、必要に応じた臨時面談や相談対応を通して、保護者や学校、関係機関との連携を大切にしている。	・連絡帳やLINE、写真・動画、面談等を通して日々の様子や子どもの変化、職員の気づきを具体的に保護者へ丁寧に伝え、家庭との情報共有を大切にしている。特に重度のお子様については、家庭では見られにくい療育中の様子や表情、感情の動きが伝わるよう、写真や動画を活用した分かりやすい発信を心掛けている。こうした情報共有を通して、家庭・事業所・学校での一日をつなぎ、子どもの成長のきっかけや気づきを家庭と共に育てていく支援を行っている。	・連絡帳やLINEに加え、写真・動画などのオンラインツールも活用し、子どもの様子や成長の場面で保護者により分かりやすく伝える情報共有の工夫を行っている。 ・子ども一人ひとりの発達段階や特性を踏まえ、発達支援・家族支援・移行支援・地域連携の視点を大切にしながら、5領域に基づいた具体的な支援計画の作成と見直しを継続して行っていく。 ・日々の支援記録や職員間の情報共有を通して子どもの変化や成長を確認し、支援内容の振り返りと改善を行いながら、より質の高い支援の提供に努めていく。
3	・チーム支援 職員同士の連携と情報共有を大切に、日々の支援の中で子どもたちの様子や小さな変化を共有し、職員それぞれの視点から意見を出し合うことで、子どもの成長課題に沿った支援方法を検討し、関わり方や距離感など支援の方向性を統一している チーム全体で統一した支援を行える体制を整えている。	① ケース会議による支援の方向性の共有 定期的にケース会議を実施し「今」の課題や成長に対しての「関わりと環境」「成長に繋がる支援」をチームで検討しながら、スモールステップで支援を視覚化し、柔軟な視点を大切に、職員間で共有・確認しながら日々の療育に活かせる組織づくりを継続している ② 日々の申し送りによる情報共有 児童の様子やその日の出来事、気になった行動や成功体験などを職員間で共有している。小さな変化にも気づけるよう情報を共有することで、共通理解を深め継続した支援につなげている。 ③ 個別支援計画の共通理解 作成した個別支援計画を職員全員で確認し、支援目標や支援方法を共有している。全職員が同じ理解のもとで支援を行うことで、児童にとって一貫性のある関わりができるようにしている。 ④ 振り返りによる支援の改善 活動後や一定期間ごとに支援の振り返りを行い、うまくいった関わり方や課題について職員間で共有している。必要に応じて支援方法を見直し、より良い支援につなげている。 ⑤ 多職種・関係機関との連携 学校、相談支援専門員、医療機関などと情報共有を行いながら、児童の生活全体を見据えた支援を行っている。事業所だけでなく地域全体で子どもを支える体制を大切にしている。	・職員研修を継続し、児童に関わる機関や他事業所の見学や体験の機会を増やし、見通しを持って幅広い見解と柔軟なアプローチとアイデアで、より専門性の高い支援につなげていく。 ・子どもの小さな成長や変化をより丁寧に記録に残し、職員間での共有を強化することで支援内容に反映できる人材育成と体制づくりを進めていく。 ・保護者や学校との情報共有をさらに大切に、子どもとの関わり、成長の軌道を見逃さずことなく信頼性の強く質の高い支援で、一貫性のある支援体制を強化していく。 ・子どもが主体的に考え行動・表現する力を育てられるよう、自己理解や視野・選択肢の幅を広げる機会を充実させていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・支援前後の情報共有を行い、職員間の連携を図っているが、勤務形態の違いにより出勤していない職員への情報共有については、より工夫が必要な点がある。 また、並行利用している児童について、他事業所との細やかな情報共有や連携が十分とは言えないケースもある。戸外活動での突発的な出来事やイレギュラーな対応について、職員間でよりスムーズに対応できる体制づくりが必要であると考えている。	・職員の勤務時間や出勤日が異なるため、情報の共有方法によっては伝達に温度差や時差が生じることがあるので時代に合わせた連絡ツールの活用方法が必要と考えている。	・職員間の情報共有の方法やルールを整理し、出勤状況に関わらず必要な情報が常勤職員と同じ温度とタイミングで共有でき、日常的なコミュニケーションを大切に、グループLINE等のツールも活用しながら、職員同士が思いやりを持って円滑に効率よく情報共有できる環境づくりを進めていく。並行利用している児童については、市町村や関係機関、他事業所との連携をより深め、必要に応じて地域自立支援協議会等の場も活用しながら支援体制の充実を図ってきたい。
2	・近隣の方との日常的な関わりや事業所間の交流はあるが、地域の方々との交流の機会はまだ十分とは言えない。 また、地域で行われているイベントや活動について、積極的に情報収集を行う必要がある。	・事業所間の交流・地域交流など利用日の児童には体験できるが全児童が平等に体験するには課題が残る具体的な方法を模索している段階である。	・他の団体や事業所の取組を参考にしながら、地域交流の方法について学び、取り入れていきたい。 また、地域のイベントや活動に積極的に参加・視察することで情報収集を行い、地域とのつながりを深めていく。